

2012 年度 日本福音同盟 (JEA) 事業計画

私たちが滅びうせなかつたのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。「あなたの真実が力強い。主こそ、私の受ける分です」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。

哀歌 3:22～24

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、地震、津波による被災に原発事故という人災も加わり、日本社会全体を揺り動かす出来事となりました。キリスト教・諸教会・諸団体は震災発生当初から被災地域に入り、海外からの祈りと支援にも後押しされて、物心両面からの救援および復興支援を行ってきました。

私たち JEA も東日本大震災対策室を中心に、福音的諸教会・諸団体および各地域の教会ネットワークや海外諸団体と協力しながら救援・復興活動を支援し、多くを学ばせられた一年でした。組織的には、3年任期の新しい理事会の発足、総主事の交代という大きな変化と同時に、この災害が起こったことで、対応についての困難を経験しました。しかし震災からの復興という長期的視点から見れば、必要な仕組みが主の導きと御守りの中で整えられつつあることを感謝しています。今後は、支援活動の継続とともに、東北と被災地への伝道をどのようにしていくのかということが大きな宣教の課題となるでしょう。

このような状況の下で 2012 年度は、引き続き東日本大震災からの救援・復興支援に関わる働きを事業計画の中心としながら、「危機の時代における宣教協力」をテーマに掲げた JCE5(2009 年)から JCE6(2016 年)に向かう日本伝道会議の流れの中で、私たち日本の福音的諸教会に与えられている課題に、祈りと力を合わせて取り組んでいきたいと願っています。特に、JCE5 の青年プロジェクトから生まれた新たな取り組みとして、次代を担う人々への宣教とリーダー育成を視野に入れて開催される「日本青年伝道会議」(青年委員会主催)に大いに期待したいと思えます。

以下、2012年度 JEA 事業計画案を提示させていただきます。引き続き、加盟団体および協力会員のみなさまのご支援とご協力をお願いいたします。

JEA 理事長 安藤能成

1. 東日本大震災からの救援・復興を支援し、次の災害に備える取り組み

東日本大震災からの救援・復興支援については、引き続き東日本大震災対策室が中心となって進めていきます(2013年3月末まで)。次の災害に備える取り組みについては、援助協力委員会を中心として、諸団体と協力しながら取り組んでいきます。

(1) 被災教会の支援

- *2011年度は、第一次支援として JEA 加盟・関係の被災教会(約 120 教会)に一律見舞金(教会 8 万円、牧師家族 5 万円)をお届けしました。第二次支援は、教会経常会計の落ち込みに対する支援(7 教会、総額 43 万円/月)を 2011 年 9 月から 2012 年 3 月までの 7 ヶ月間行いました。
- *2012 年度は、第三次支援として教会建物の再建・修復に対する支援を 3 段階(A ランク 200 万円、B ランク 100 万円、C ランク 20 万円)に分け、総額約 2,000 万円の枠でスタートしています。
- *被災教会支援に関しては、これまで主に JEA 加盟・関係の教会に対して、各教団・教派などからの情報と各個教会からの申請に基づいて支援をしてきましたが、2012 年度はそれ以外の団体や単立教会などにも必要に応じて支援を拡げていきたいと願っています。JEA 加盟団体・協力会員からの推薦状を添付して、東日本大震災対策室宛てに情報をお送りいただければ、審査の上、支援を行いたいと思えますので、ご協力をお願いします。
- *また特に困難な状況にある福島県の教会を継続して支援し、共に歩むキリストの体としての連帯を現していくために、第 27 回 JEA 総会では、福島県キリスト教連絡会の代表者から福島県の声を聴き共に祈る時をもちます。

(2) 教会ネットワークの支援 (被災地域のネットワーク / 外部からの支援ネットワーク)

- *DRC ネットワーク(東日本大震災救援キリスト者連絡会)と協力しながら、各地域で立ち上げられ

た超教派の教会ネットワークを支援していきます。救援・復興の段階はそれぞれの地域ごとに異なり、地域のニーズに応じた支援のカギとなるのは被災地域の教会ネットワークです。また各救援団体が緊急支援の働きを収束していくにあたり、支援活動継続の受け皿としてもそのようなネットワークに期待がかかります。しかし多くの場合、被災地域の教会と牧師、信徒は疲弊しており、そのような受け皿となることは困難です。今後は、被災地域の外から様々な支援ネットワークやチームを組んで支援を継続していくことが重要になってくると思われます。JEA ではそのような「教会から教会へ」の理念に沿った教会ネットワークの働きを支援していきます(予算枠 500 万円)。

(3) 次の災害に備える取り組み

- * 援助協力委員会と長年の協力関係にあるワールド・リリーフからの支援により、援助協力委員会とホートン大学人道的災害支援研究所(HDI=Humanitarian Disaster Institute)の共同プロジェクトとして、災害対応チャプレン・プログラムと地域教会の災害対応支援プロジェクトを進めています。具体化にあたっては、DRC ネットワーク、日本救世軍、クラッシュ・ジャパン、各地域の教会ネットワークなどと協力しながら進めていく予定です(予算枠 500 万円)。
- * また JEA 総務局としては、事務所の災害対応(水、食料の備蓄、災害対応備品準備)および事務機能のクラウド化を進め、物理的に事務所が使用不能になっても、総務局としての働きを継続できるよう準備を進めています。

(4) 情報集約への協力とシステム開発

- * 震災発生当初から、全体的な情報集約の必要が訴えられていましたが、緊急支援段階においては十分な情報集約はできませんでした。2011 年 11 月末に開かれた JEMA(日本福音宣教師団)の宣教会議、DRC ネットの地域ネットワーク会議において、諸団体の情報を集約する地図化プロジェクトが発案され、クラッシュ・ジャパン IT 部門の協力で進められています。JEA はこれに協力すると同時に、ホートン大学人道的災害支援研究所(HDI)の協力を得て、次の災害時に有効な情報集約ができるシステムの開発に取り組みます。

(5) 宣教協力の進展のために

- * 東日本大震災とそこからの救援・復興活動を通じて、日本の福音的諸教会が学んでいること、与えられているチャレンジなどの課題について、宣教委員会を中心に他の諸団体(DRC ネットワークや各地域の教会ネットワーク、各神学校・学会・研究所、WEA やローザンヌ運動など国際的な機関など)とも連携しながら、共有し深めていく場を提供していきます。
- * 具体的には、宣教フォーラム仙台を 10 月 29 日～30 日、仙台青葉荘教会にて開催し、被災地の諸教会の取り組みから学ぶと共に、2 月の JEA 宣教シンポジウム、3 月の国際神学シンポジウムなどの内容も踏まえて、今後の日本宣教の方向性を探っていきたいと願います。

(6) 原子力発電の問題に関して

- * 福島第一原子力発電所の事故発生により、原子力発電に関する問題が大きなテーマとして浮かび上がってきました。JEA 理事会の付託により神学委員会および社会委員会が、それぞれの立場で一年間研究・協議を重ねてきましたが、NCC やカトリックに比べて私たち福音派は、このテーマについての研究の積み重ねが少ないことを正直に告白せざるを得ません。しかし、震災から一年以上が経過した今、聖書信仰を堅持する立場からの発信の必要性をおぼえ、JEA 理事会での検討の結果、理事長声明としてこのテーマに関する発信を行うことを決定しました。神学委員会、社会委員会それぞれの立場からの発信も 2012 年度中に予定されています。

2. 第 6 回日本伝道会議(JCE6)に向けた取り組み

2009 年札幌で開催された第 5 回日本伝道会議(JCE5)の流れの中から、2011 年度は、7 月に「2011 宣教フォーラム青森」(青森県キリスト教会会議主催)が、10 月末から 11 月にかけて「宣教フォーラム秋田」(JEA 宣教委員会主催)が開催されました。

- (1) 2012 年度は、6 月に心のオアシス・リトリート(JEA 女性委員会主催)が、9 月に日本青年伝道会議(JEA 青年委員会主催)が、10 月末には宣教フォーラム仙台(JEA 宣教委員会主催)が開催される予定です。

- (2) **第6回日本伝道会議(JCE6)の開催準備**については、2010年7月に発足したJCE準備室で開催候補地との調整が行われてきましたが、2012年6月の第27回JEA総会において神戸を開催地として決定する運びとなりました。また実行委員会の組織については、2012年4月23日の第129回JEA理事会において実行委員会三役の人事(実行委員長:竿代照夫、プログラム局長:小平牧生、事務局長:畑中洋人)を承認しました。この他に3名の副実行委員長(開催地委員会委員長、財務担当、渉外担当)などが加わって、2012年7月に実行委員会が発足する予定です。
- (3) **JCE6のテーマ・理念の検討**については、第27回JEA総会において「JCE6に向けて、日本宣教の課題」と題して、各専門委員会から10分間ずつの発題の後、小グループによるディスカッションを行い、その内容をJCE6実行委員会に引き継ぎます。
- (4) またJCE5の**宣教における女性の働きプロジェクト**から引き継いだ課題を女性委員会、理事会、専門委員長会議で検討した結果、JEAの各組織の中でできるだけ女性を加え、女性の視点と賜物を活かしていくことで一致しました。まずは、総会の代議員や専門委員会の委員として各教団・教会から女性を送り出していただくようお願いします。その上で、女性が入っていない専門委員会などには女性委員会枠オブザーバーを新設し、女性委員会からの推薦でオブザーバーをおくなどの調整を進めていきます。

3. アジアおよび世界の教会との連帯と具体的な協力の業

日本福音同盟(JEA)はアジア福音同盟(AEA)と世界福音同盟(WEA)に加盟し、アジア地域および世界の福音的諸教会との協力関係を結びつつ、教会の宣教の業に参加しています。

昨年(2011年)は、東日本大震災からの救援・復興のために、世界中の教会、クリスチャンから祈りと支援献金がささげられ、海外からボランティアとして来日した人々も多くありました。特にJEAが加盟するWEAからは4月初めに副総主事のゴードン・ショーウェル・ロジャース師が、10月には特使としてブライアン・スティラー師夫妻が来日し、被災地を訪問して**世界128カ国、6億人の福音的クリスチャンの連帯**を現してくださいました。また震災から一年となる2012年3月11日には、JEAからの祈りの要請に応じて、世界各地の教会が連鎖祈禱に加わってくださり、世界に広がるキリストの体としての教会の一体感を感じることができました。

2012年度は、年末に米国セントルイスで開催される**アーバナ12青年宣教大会**などが国際会議として予定されています。世界的なグローバル化の流れの中で注目されるディアスポラ宣教、マーケットプレイス宣教などのテーマにも、宣教委員会を中心として関わります。ディアスポラ関係では、11月にANRC(All Nations Returnees Conference)2012がヤマハリゾート・つま恋で開催される予定です。

4. 日本青年伝道会議の開催

JCE5の青年プロジェクトから企画が始まった日本青年伝道会議(NSD、JEA青年委員会主催)が9月17日～19日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)にて開催されます。2003年のすつと青山、2005年のすつと関東、2009年のすつとEZRAなどの流れを受け継ぎながら、次代を担う人々への宣教とリーダー育成を目指しています。

- ・日時:2012年9月17日(月)～19日(水)
- ・会場:国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・テーマ: Reach The Young! ～分かち合おう、青年宣教のVision～
- ・聖書講演講師 郷家一二三師(日本ホーリネス教団委員長)
「聖書から見る青年宣教」
山口陽一師(東京基督神学校校長)
「歴史から見る日本の青年宣教」
- ・青年大会講師 米内宏明師(日本バプテスト教会連合理事長、
国分寺バプテスト教会牧師,JCFN理事長)
小澤由紀恵師(元日本福音キリスト教会連合宣教教会伝道師)

5. 各専門委員会による2012年度活動計画

今年度、各専門委員会が計画している主な活動は以下の通り。

A. 宣教委員会

- 1) 「宣教フォーラム仙台」開催
日時:2012年10月29日(月)～30日(火)
場所:宮城県仙台市 日本基督教団 仙台青葉荘教会
内容:東日本大震災から考える日本宣教の課題について、被災地域の諸教会から学ぶと同時に、JEA 宣教シンポジウム(2月6日、JEA 宣教委員会主催)、国際神学シンポジウム(3月23日、DRC ネット、東京基督教大学、聖学院総合研究所主催、フラー神学大学共催)などの内容を深め、日本の教会全体の課題として共有していきたい。
- 2) 継続して趙南珠師をJCE6 準備室に派遣し、「宣教」関連の準備にあたる。
- 3) 引退教職の人材バンクの整備や活用は今後の課題として残されている。
- 4) ディアスポラネットワーク、JOMA などと連携しながら世界宣教の課題に取り組む。

B. 援助協力委員会

- 1) 東日本大震災対策室(2013年3月まで活動)と連携し、引き続き救援・復興活動に協力する。
- 2) 長年協力関係にあるワールド・リリーフおよび米国ホィートン大学人道的災害支援研究所(HDI)との共同プロジェクトとして、救世軍、DRC ネット、クラッシュ・ジャパンなどと協力しながら、災害対応チャプレン・プログラムと地域教会の災害対応支援プロジェクトを推進する。東日本大震災の被災地域だけでなく、今後、地震などの災害発生が予測されている首都圏、東海、関西などの諸地域の教会ネットワークと協力していきたい。
- 3) 国内外からの支援金の管理を行う。
- 4) 援助協力ニュースを、JEA ニュースに組み込む形で発行する。
- 5) その他の援助協力活動について検討、実施する。

C. 神学委員会

- 1) 「宗教と科学」のテーマに関する研究を継続する。
- 2) 原子力発電についての神学的検討を継続し、年度末にブックレット化をめざす。
- 3) 日本伝道会議のテーマに関する検討も継続して行う。

D. 社会委員会

- 1) 君が代強制・憲法改正・天皇元首化問題を問う集会を、諸教団の協力によって大阪・東京にて開催できるよう準備する。
- 2) 原発問題について学びを深め、教会が向き合う課題として検討する。
- 3) 第24回信教の自由セミナーの内容、開催方法について検討する。

E. 女性委員会

- 1) 第10回心のオアシスリトリート開催
・日時:2012年6月25日(月)～6月27日(水)
・場所:ホテルリステル猪苗代(福島県)
・講師:佐藤彰師
・テーマ:「生ける望みにあふれる」
・被災地の証し:佐藤夫人、住吉美和子師、松下潤子師
・分科会:「被災地支援の現状」、「女性のグットエイジング」、「子どもの自立」、「ゴスペルフラ」、「よりよい夫婦関係」、「高齢者ケア Q&A」、「弱さを抱える家族と共に」
- 2) 宣教フォーラム仙台 分科会参加
- 3) 日本青年伝道会議 分科会参加
・日時:2012年9月17日(月)～9月19日(水)
・場所:代々木オリンピックセンター
・分科会テーマ:「眠らせないで、女子力」
・講師:立石充子氏→女性とキャリア
西岡まり子師→結婚カウンセリング方法提示

- 4) 各専門委員会への女性委員参加について協力し、共に宣教の課題に参加する
- 5) 継続活動
 - ・「流れのほとり」発行
 - ・女性委員会情報サイトの更新
 - ・AEA 女性委員会との交流

F. 青年委員会

- 1) 日本青年伝道会議の開催
 - ・日時:2012年9月17日(月)～19日(水)
 - ・会場:国立オリンピック記念青少年総合センター
 - ・テーマ: Reach The Young! ～分かち合おう、青年宣教の Vision～
- 2) 第7回青年宣教セミナーの準備
 - ・日時:2013年5月20日(月)～21日(火)
 - ・会場:奥多摩バイブルチャレー